



防災専門図書館 企画展「震度7の連鎖：首都直下地震を考える ～福井地震から70年～」2018年7月のグラフを改変
1923年～2021年 震度5以上の揺れを記録した地震の回数

1995年を境に地震の回数や震度の大きさが大きく異なっています。なぜでしょうか？

かつては、気象庁職員による体感震度だったので、震源のそばに気象庁官署（測候所、気象台など）がないと、最大の震度が小さくなったり、震度の記録数が少なくなります。1995年の阪神・淡路大震災をきっかけに、1996年には機械による震度計測へ完全に切り替わり、震源のそばの強い揺れや、地盤による揺れの違いがより明らかになってきました。また、気象庁だけでなく、地方公共団体、防災科学技術研究所、大学等が設置した地震計のデータも気象庁に集められ、震度を観測する場所が飛躍的に増えました。そのため、1995年以降は詳細に地震の震度が判定できるようになったのです。

また、震度7ができたのは福井地震（1948年）の後で、それまで震度は6までしかありませんでした。福井地震は家屋の倒壊率が高くそれまでの震度では表すことができないくらい大きな地震でした。

1995年の阪神淡路大震災では、震度7が被害状況により後日判定され、1996年以降は地震計により震度7が観測されています。